



# オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

2022年  
4月号  
2022.4.23発行  
第241号

あたらしい仲間を紹介します

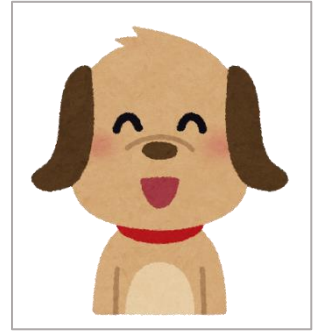


ズオン・トゥアン・アン  
(ベトナム)  
日本に来て2年になります。  
ネットで調べてオリーブを知りました。N3に合格したいです。



ブイ・ヴァン・チャム  
(ベトナム)  
日本に来て3年になります。  
友だちがオリーブを紹介してくれました。N4に合格したいです。

あたらしい先生です



三宅 敦子先生

皆様と一緒に日本語  
を楽しく勉強したいと  
思っています。  
どうぞよろしくお願いい  
たします。

## 中川先生のへんてこ日本語

139



S・M・L

人気のSカフェでコーヒーを注文したら、「サイズはどうされますか」と聞かれ、「M」と答えた。すると怪訝そうな顔をされ、サイズ見本のカップを出してきた。レギュラーサイズだろうと思って、いちばん小さいサイズのカップを指さすと、「Sでよろしいですか」。どうやらS・M・Lではなく、S (Short)・T (Tall)・G (Grande)・V (Vent)と言っらしい。筆者のような田舎者のためにサイズ見本が用意されているのが憎らしい。「服のサイズじゃあるまいし」とでも思われたのだろうか。他のメーカー店では、S・M・Lなのに、「レギュラーサイズ」と「たっぶりサイズ」という店もある。これなら分かりやすい。

そもそも喫茶店やコーヒーショップという名称もあまり使われなくなり、カフェに移行してきた。入り口付近のレジで最初に注文して、テイクアウトかイートインか告げるシステムに変化してきた。チェーン店を中心に、カフェ自体も増えているようだ。カフェ文化が進んでいる。

かつてSカフェに入ろうと思ったら、若い人たちの行列ができていたので、近くのIカフェに行った。すんなりと入れたが、客の年齢層が全く異なっていた。やはり宅配者には、店員さんが注文を取りに来てくれる方がありがたい。

カフェのメニューだが、カフェラテ、カフェオレというのがある。なぜミルクコーヒーではないのか。ソイラテとかいうのも豆乳とは呼ばない。

カフェではないが、テーブルの上のタブレットで注文するレストランもある。もはやこうなれば、通い慣れた人にしか無理だ。筆者のような一見さんや外国人には難題である。

コーヒーぐらいはのんびり味わい、ホットしたいものだ。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

3月6日（日）に草津アマカホールにて行われた  
びわこ日本語ネットワーク主催の「外国人による日本語スピーチ大会」で、オリーブのラヤン・ハーミドさんが滋賀県国際協会会長賞を受賞されました！  
発表は「母国スーダンの若者のためにやりたいこと」というタイトルで堂々とスピーチされ、オリーブから2年続けての受賞を果たすことができました。

当日のスピーチを次ページに掲載しました！



## オリーブで長年、日本語指導をしてくださった 田中一美先生が寄稿してくださいました！



### オリーブの思い出 田中一美

18年前のことになります。当時、町づくりセンター3階の教室で、毎週中国語同好会で中国語の勉強をしていました。帰り際に、偶然「オリーブの先生募集」の張り紙に気づいたのがオリーブとの出会いです。恩地代表にお電話しましたところ、「10周年の文集を出したところ」とおっしゃっていましたので、私が入会したのは2005年ごろと思います。

全くの素人で参加させていただき、オリーブ主催の勉強会や、その他の講演会などで日本語教授法を勉強させていただいたのも楽しい思い出です。この間、教室の維持・発展に尽くされたスタッフの皆様のご努力には頭が下がります。

最初のころ、受け持ったペルーのジョエル君、中学に通い始めるとみるみる日本語が上達し、「学校の力」に驚かされました。中3になり、公立高校の入試勉強を手伝ったのも懐かしい思い出です。合格発表の日から数日たっても連絡がないので、すっかり気落ちしていたところ、土曜日になってオリーブにやってきて「先生、合格しました」と言われ驚きました。オリーブで勉強していた彼のお兄さんにこの話をしたところ、「それは、自分の口から先生に直接言いたかったからでしょう」と言われ、国によって考え方



が違うものだと改めて感じました。

ある日、夜中の2時ごろに携帯が鳴り、びっくりしてとったところ、2級を目指して勉強していたインドネシアのメイディ君から「2級に合格しました。もう、うれしくて、先生のお陰です」、「メイディ君の努力のお陰ですよ」という真夜中の会話も印象に残っている出来事です。

また、町セン施設部会のイベントとして老人会の方々をお招きしてお茶会を開き、オリーブの若手外国人の皆さんのスピーチを聞いていただいたり会話を楽しんでいただいたのも思い出に残るイベントでした。

お花見や紅葉狩りバス旅行などのイベントも、たくさん楽しませていただきました。約18年もの長きにわたり、本当にお世話になりありがとうございました。オリーブのますますの発展と皆様のご活躍を祈念いたしております。



長年オリーブの活動をさせていただき、ありがとうございました！今後もイベントなどの折に、ご参加いただけたらうれしいです。



## 母国スーダンの若者のためにやりたいこと



皆さん、こんにちは。

私はラヤーンと申します。アフリカのスーダンから来ました。世界で一番長いナイル川のある国です。日本に来る前は、首都のハルツーム大学を卒業し、石油化学省で働いていました。その時に JICA の研修プログラムに参加する機会を得て徳島大学の大学院で学び、現在、草津市にある水処理関係の企業で働いています。

私たちがこれから直面する最大の問題とは何でしょう？ それは世界的な食料不足です。開発の代償として、土壌や水の汚染により食料生産国の生産能力が低下し、人口増加に加えて生活水準の向上による消費も加わり、そう遠くない将来に、私たちは食料不足に直面するでしょう。

そこで、2015年に各国から200人以上の専門家がハーバード大学に集まり、会議が開かれました。そしてひとつの有力な解決策が提言されました。それは、アフリカに食料生産の拠点をつくることです。アフリカでは耕作可能な土地の約7%しか利用されていません。私の母国であるスーダンは、いくつかの理由から、その中心的な存在となりました。スーダンの平均年齢は19歳と世界でも最も若い国のひとつで、若い労働力が豊富です。

またスーダンはアフリカと中東の交差点に位置し、地中海や大西洋まで続く物流ルートを有しています。また国土が広く、南北に長いので、様々な気候・環境条件の農産物、畜産物の生産が可能です。

しかし、この国は1956年の独立以来、国内の紛争が続いたため、まだ多くの問題が残っています。スーダンが世界の穀倉地帯の一つになり得るという可能性を追求すると同時に、不幸な歴史により遅れてしまった産業技術を獲得するために、日本のような先

進国は、その長い開発経験と技術を移転することで支援することができます。

日本政府はすでにアフリカ大陸に対して、JICAを通じて特別な研修プログラムを実行しています。私が来日したこの研修プログラムは、アフリカの若者に日本の大学で修士号を取得させ、卒業後に日本企業でインターンシップを経験する機会を提供するものです。

しかしこの研修に参加したアフリカの人たちとの対話を通じて感じたことは、彼らの多くが日本語という壁に直面し、苦戦しているという事実でした。なぜなら、参加者のほとんどは日本語能力がゼロに近い状態で来日しており、日本語をゼロから学ぶチャンスは、留学した大学や地域によって異なるからです。私の場合、徳島大学に入学して、ひらがなから始まる3ヶ月の集中日本語講座に参加しました。もちろん、それだけでは不十分で、その後も独学で勉強を続けてきました。

もちろん、日本語の勉強と専門技術の習得を両立させることは容易ではありませんでしたが、日本の技術を母国に伝えるという私の将来の夢の実現に少しずつ近づくことができました。また、言語は文化の一部であり、日本語を学ぶことで日本の文化やマナー、考え方についてより深く理解することができるようになりました。

この経験を私一人で終わらせるのではなく、若い才能あるスーダン人が日本語を学び、日本に興味を持ち、来日して研修し、最終的には、両国を結び付けてお互いの利益になれるような活動のできる人材に成長してほしいのです。私が経験したことを様々な産業分野で経験し、最終的に両国の架け橋になれるような人材を育成するため、まず第一歩として“オンライン広場”を立ち上げようと考えています。私は、国と国をつなぐことは政府だけの任務ではなく、私たち個人も大きな役割を果たすことができると信じて活動していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。





## 先月の活動 (3月)

日本語教室 3/5,12,26 (3回) (希望者のみ出席)  
 BNNスピーチ大会(恩地・豊田・福井・田中) 3/6(日)



## 今月の活動予定 (4月)

日本語教室 4/2(M),9(M),16,23(4回)  
 会計監査 4/23(土)(内田幸・杉山美・小春)

●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●( )内は参加者、または 参加予定者。敬称略



## 参加人数 (3月)

	3/5	3/12	3/26
学習者	5	10	5
先生	5	9	7



## 会員の動き

〈入会〉 三宅 敦子  
 〈退会〉 吉居 諒磨  
 〈休会〉 なし

## 吉居諒磨先生、新天地でも

### ご活躍ください！



僕はこの3月で京都の立命館大学を卒業して岐阜県で働くことになり、今月いっぱいオーリーブを去ることになりました。

僕がオーリーブに入ったのは2020年の11月頃で、そこから一年半ぐらい皆さんと関わってきて、とても楽しかったし自分にとってとてもいい刺激になったと思っています。ここには外国語を話せる外国人の方がいっぱいいらっしゃるの、日本語を教えるだけじゃなくて自分が学びたい英語の勉強もすることができて、とてもいい経験になったと思っています。また夏に JLPT のテストがあると思いますが、皆さん合格を目指して頑張ってください。ありがとうございました。



### 滋賀県栗東市に おいしいラテン料理とお酒が楽しめる ガストロバーを作りたい！

いつもオーリーブのパーティに美味しいラテン料理を差し入れてくださっている日系ペルー人のデボラさんが「おいしいラテン料理とお酒が楽しめるガストロバーを栗東市に作りたい！」とクラウドファンディングサイト“CAMPFIRE”で資金集めに挑戦されています(～5/31)。

応援してくださる金額にあわせていろいろなリターンが選べますので、デボラさんの夢の実現に協力しよう！と思ったださる方は CAMPFIRE で「滋賀 ラテン料理」で検索してください。実はペルーは海の幸にも山の幸にも恵まれた美食の国なんですよ！珍しいペルー料理のお店、オープンした暁にはオーリーブ通信係も取材を口実にぜひ飲みに行きたいと思います！

〈編集後記〉1月22日から各班の判断で細々と継続されてきた日本語教室ですが、まん防が終わったことと3回目接種を終えた先生、生徒が増えてきたことから、ぼちぼちと再開されはじめました。海外では3回目接種の証明を条件に入国後の隔離が免除される国も増え始め、日本でもハワイ・ツアーの募集が始まるようです。留学生もやっと入国できるようになって日本も今後さらに規制が緩和されていくのでしょうか… (遠藤)